

| | | | |
|------------|---------------------|----------|--------------------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 数学課外講習（基礎） | 2 | 1年・1類 | |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 新編 数学I、新編 数学A（数研出版） | | 基本と演習テーマ数学IA（数研出版） |

| |
|---|
| 科目の到達目標 |
| 基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法について |
| 評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて 具体的には、取り組み姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-------------|---|--|----------------------------------|---|---|
| 一 学 期 | 4 | (数学A) 第1章 数と式 第1節 整式 | 整式の演算、因数分解が確実にできるようにする。 | 多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解 | 展開、因数分解が速く・正確にできる |
| | 5 | (数学I) 第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ | 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 | 2次関数のグラフと平行移動 2次関数の決定 | 平方完成ができる。また、2次関数のグラフの関係を理解し、グラフをかくことができる。 |
| | 6 | (数学A) 第1章 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式 | 絶対値記号を理解し、絶対値を含む方程式・不等式が解けるようにする | 絶対値を含む方程式・不等式 実数 分母の有理化 | 根号を含む式の計算ができる |
| | 6 | (数学I) 第3章 2次関数 第2節 2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小 | 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 | 2次関数の最大・最小 最大・最小の応用 2次関数のグラフとx軸との交点 | |
| | 7 | 第3節 2次関数と方程式・不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式 | 2次不等式の解を求めることができるようにする。 | 2次関数のグラフと2次不等式 | グラフを用いて、2次方程式・不等式を解いたり、解の個数を求めたりすることができる。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|--|-------------|---|---|---|---|
| 二 学 期 | 9 | (数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 順列・組合せ | 具体的な事象の考察を通して、順列・組合せについて理解する。 | 順列・円順列・重複順列 組合せ 組合せと絡めた総合問題 | 順列・組合せの問題を解くことができる。 |
| | 10 | (数学I) 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理 | 三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。 | 鋭角の三角比 $180^\circ - \theta$ の三角比 三角比の相互関係 | 三角比の定義、 基本公式を理解している。 図形に適用できる。 |
| | 11 | (数学A) 第1章 場合の数と確率 第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率 | 順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理することができるようにする。 | 試行、根元事象、確率の定義、排反事象、加法定理、余事象 独立な試行 反復試行の確率 | 確率を正確に計算することができる。 |
| | | (数学I) 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用 | 角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。 | 直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用 | 正弦定理、余弦定理を正確に利用できる。 |
| | 12 | 第2章 集合と命題 | 集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識する。 | 集合の表し方、集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶 | 集合の要素の個数を求めることができる。 |
| | 三 学 期 | 1 2 3 | (数学I) 第5章 データの分析 (数学II) 第1章 式と証明 (数学A) 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質 | 統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 式と証明についての理解を深める。 平面図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける | 度数分布表、ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数、分散・標準偏差 2年次の内容に入る。(数II) ・整式の除法と分数式 三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 方べきの定理 円と共通接線 |
| <p>その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)</p> <p>数学Iの単位が3、数学Aの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。この講習では、問題集(テーマ数学IA)の問題演習をする。数学I、Aの授業についていくためにも復習を必ず行いたい。基本問題を中心に進めていくが、数学I、Aの授業についていけるように標準問題も取り入れていくつもりである。真摯な態度で受講することを強く望む。日々継続した学習を心がけて、寮や自宅での学習習慣を身に付けてもらいたい。何度も何度も繰り返し問題を解いて、本当の学力をつけてほしい。</p> | | | | | |

| | | | |
|-------------|----------------------|----------|---------------------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 数学課外講習(指名者) | 2 | 1年・1類 | |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 新編 数学I、新編 数学A (数研出版) | | 基本と演習テーマ数学IA (数研出版) |

| |
|---|
| 科目の到達目標 |
| 基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法について |
| 評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて 具体的には、取り組み姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-------------|---|---|--|--|--|
| 一 学 期 | 4 | (数学A) 第1章 数と式 第1節 整式 | 整式の演算、因数分解が確実にできるようにする。 | 多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解 | 展開、因数分解が速く・正確にできる |
| | 5 | (数学I) 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小 | 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 | 2次関数のグラフと平行移動 2次関数の決定 2次関数の最大・最小 | 平方完成ができる。また、2次関数のグラフの関係を理解し、グラフをかくことができる。 根号を含む式の計算ができる |
| | 6 | (数学A) 第1章 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式 | 絶対値記号を理解し、絶対値を含む方程式・不等式が解けるようにする | 絶対値を含む方程式・不等式 実数 分母の有理化 | |
| | 7 | (数学I) 第3章 2次関数 第3節 2次関数と方程式・不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式 | 2次不等式の解を求めることができるようにする。 | 2次関数のグラフとx軸との交点 2次関数のグラフと2次不等式 | グラフを用いて、2次方程式・不等式を解いたり、解の個数を求めたりすることができる。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント | |
|-------------|---|---|---|---|--|--|
| 二 学 期 | 9 | (数学I) 第2章 集合と命題 | 集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識する。 | 集合の表し方, 集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶 | 集合の要素の個数を求めることができる。 | |
| | 10 | (数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 順列・組合せ | 具体的な事象の考察を通して、順列・組合せについて理解する。 | 順列・円順列・重複順列 組合せ 組合せと絡めた総合問題 | 順列・組合せの問題を解くことができる。 | |
| | 11 | (数学I) 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理 | 三角形における三角比の意味, それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。 | 鋭角の三角比 $180^\circ - \theta$ の三角比 三角比の相互関係 | 三角比の定義、基本公式を理解している。図形に応用できる。 | |
| | 12 | (数学A) 第1章 場合の数と確率 第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率 | 順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理することができるようにする。 | 試行、根元事象、確率の定義、排反事象、加法定理、余事象 独立な試行 反復試行の確率 | 確率を正確に計算することができる。 | |
| | 1 | (数学I) 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用 | 角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。 | 直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用 | 正弦定理、余弦定理を正確に利用できる。 | |
| | 2 | (数学A) 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質 | 平面図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける | 三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 方べきの定理 円と共通接線 | 三角形の重心・外心・内心に関する角度および長さを求められる内接四角形の性質を理解し、角度・長さを求められる。 | |
| | 3 | (数学I) 第5章 データの分析 | 統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 | 度数分布表, ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数, 分散・標準偏差 | | |
| | 1 | (数学II) 第1章 式と証明 | 式と証明についての理解を深める。 | 2年次の内容に入る。(数II) ・整式の除法と分数式 | 多項式の計算が正しくできる。 | |
| | <p>その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)</p> <p>数学Iの単位が3, 数学Aの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。この講習では、問題集(テーマ数学IA)の問題演習をする。数学I、Aの授業についていくためにも復習を必ず行いたい。基本問題を中心に進めていくが、数学I、Aの授業についていけるように標準問題も取り入れていくつもりである。真摯な態度で受講することを強く望む。日々継続した学習を心がけて、寮や自宅での学習習慣を身に付けてもらいたい。何度も何度も繰り返し問題を解いて、本当の学力をつけてほしい。</p> | | | | | |

| | | | |
|----------|-----------------|----------------------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 大学入試準備講習 | 1 | 1年1類 | 選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | 副教材等 | |
| ***** | 新編 数学I・A (数研出版) | 基本と演習テーマ数学I+A (数研出版) | |

| |
|--|
| 科目の到達目標 |
| 基礎的な計算力と解法の定石を身につける。また、発展問題等を扱い大学入試に直結する学力を養う。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法について |
| 評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、小テストによって総合的に行なう。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-----|----|---------|--|---|---|
| 一学期 | 4 | 数と式 | 左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。 | 展開・因数分解、無理数の計算、1次不等式、平方完成、2次方程式、2次不等式の計算練習を行う。その後、夏期講習を利用して、標準的、発展的な問題の演習を行う。 模試前には、模試対策を行う。 | 出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。 |
| | 5 | 実数 | | | |
| | 6 | 1次不等式 | | | |
| | 7 | 2次関数 | | | |
| 二学期 | 10 | 三角比 | 左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。 | 三角比の相互関係、三角比の値、正弦定理、余弦定理の計算練習を行う。その後、冬期講習を利用して、標準的、発展的な問題の演習を行う。 模試前には、模試対策を行う。 | 出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。 |
| | 11 | 三角比への応用 | | | |
| | 12 | | | | |
| 三学期 | 1 | データ分析 | 左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。 | 分散、標準偏差、相関係数 整式の割り算、分数式と計算、 3次式の因数分解の計算練習を行う。 共通テスト後には共通テストを行う。 | 出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。 |
| | 2 | 式と証明 | | | |
| | 3 | | | | |

| |
|---|
| その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など) |
| 大学への進学に対応できる力をつけることを念頭に授業を進めます。学力の定着を図るために、教科書や問題集で毎日、家庭学習をすることを求めます。また、授業の進度に合わせて課題を出します。日々の疑問を残すことのないよう質問に積極的に来てください。 |

| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
|------------|------------------------------|----------|-------------------------|
| 入試準備講習（英語） | 1 | 1年I類 | 希望者 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 『BIG DIPPER I（音声 CD 含む）』（数研） | | 『ユメタン0』（アルク） ハンドアウト等 |

【科目の到達目標】(Purposes of the Course)

本講習では、大学受験に向けて通常の授業では十分にカバーしきれない部分に焦点を合わせ、より実践的な英語力習得を目指す。併せて、実用的な英語学習方法を紹介していくので、希望進路を問わず、英語に興味を持つ生徒諸君の受講を歓迎する。

【評価の観点と方法について】(Grading Procedure)

本講習では、原則毎時間の冒頭に英単語の小テストを実施し、各自の取り組みや語彙習得度合いを小テスト結果により確認する。

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|-------------|---|----------------------------------|--|---|
| 一 学 期 | 4 | レベル確認テスト | ・スタート時点での実力を把握 | ・テスト ・ユメタンの勉強方法の紹介 |
| | | ユメタン0 1~50 Lesson 1 Part 1 | ・授業で扱った題材を使用し、様々な活動を通してより理解を深めながら Speaking, Listening, Writing の向上を図る | ・Listening、Dictation、英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施 |
| | 5 | ユメタン0 51~100 Lesson 1 Part 2 | ・発音記号を理解し、正しい発音ができるようになる | ・フォニックスのテキストを利用 |
| | | ユメタン0 101~150 Lesson 1 Part 3 | | |
| | 6 | ユメタン0 151~200 Lesson 2 Part 1 | | |
| | | ユメタン0 201~250 Lesson 2 Part 2 | | |
| | 7 | ユメタン0 251~300 Lesson 2 Part 3 | | |
| | | ユメタン0 301~350 Lesson 3 Part 1 | | |
| | | ユメタン0 351~400 Lesson 3 Part 2 | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|-------------|----|----------------------------------|--|--|
| 二 学 期 | 9 | ユメタンO 401~450 Lesson 4 Part 1 | ・授業で扱った題材を使用し、様々な活動を通してより理解を深めながら Speaking, Listening, Writing の向上を図る | ・Listening、Dictation、英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施 ・フォニックスのテキストを利用 |
| | | ユメタンO 451~500 Lesson 4 Part 2 | | |
| | 10 | ユメタンO 501~550 Lesson 4 Part 3 | ・発音における「連結」「脱落」を理解し、正しく発音ができるようになる | |
| | | ユメタンO 551~600 Lesson 5 Part 1 | | |
| | | ユメタンO 601~650 Lesson 5 Part 2 | | |
| | 11 | ユメタンO 651~700 Lesson 5 Part 3 | | |
| | | ユメタンO 701~750 Lesson 5 Part 4 | | |
| | 12 | ユメタンO 751~800 Lesson 6 Part 1 | | |
| 三 学 期 | 1 | ユメタンO 801~850 Lesson 7 Part 1 | ・授業で扱った題材を使用し、様々な活動を通してより理解を深めながら Speaking, Listening, Writing の向上を図る | ・Listening、Dictation、英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施 ・フォニックスのテキストを利用 |
| | 2 | ユメタンO 851~900 Lesson 7 Part 2 | | |
| | 3 | | ・発音における「変化」「強勢」を理解し、正しく発音ができるようになる | |

【その他(履修上の留意点・大学等進学のための学習など)】

国公立大学や有名私立大学を受験するというのは、言い換えれば、部活動で全国大会出場を目指すことと同じ意味であると考えています。そのためには毎日の練習・努力が欠かせません。

この講習では、共通テスト受験のための前準備として、基礎語彙力の向上と習得とともに「読む力」「聴く力」「体力」の向上を目指します。講習時間内での作業が多く、ただ受けていけばいいというものではありません。毎週単語テストと、多種多様な音読活動などを行います。授業時間だけでなく、隙間時間の有効活用や家庭学習が必須となります。まずは学習する習慣を身につけ、この一年で確かな英語力の土台作りと自信を獲得していきましょう。

| | | | |
|--------|--|----------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 英語基礎講習 | 2 | 1年I類 | 選択 |
| 授業担当者 | 教材名 | | |
| ***** | Vision Quest English Expression I Standard Ultimate 総合英語 Vision Quest Standard Workbook ハンドアウト類 | | |

| |
|-------------------|
| 科目の到達目標 |
| ○英文法の理解と定着、応用 |
| ○「英語表現 I」の授業内容の復習 |

主に、「英語表現 I」の復習を中心に、英文法の理解と定着と応用を目指して授業を行います。
 文法を全ての構造を網羅して学習することの理由は、確かな土台を持った、知的レベルが高いと思ってもらえる正確な英語を表出できることを、将来的な目標とするからです。外国語の学習過程を研究する「第2言語習得」の研究分野では、文法をしっかり学習することが、言語に対する意識を高め、学習している言語の使用について最終到達点を押し上げるという報告もあります。あくまでも、目的ではなく手段としての文法学習ですが、しっかり学んで堅牢な英語の土台を築いてください。

| | 月 | 学習項目 | 具体的な学習内容と方法 |
|-----|---|---------------|--|
| 一学期 | 4 | 文の種類 | プリント等を利用し、英文法の解説と演習を行う。 定期考査前には考査対策を念頭に授業を行う。 |
| | 5 | 時制 | |
| | 6 | 中間考査 完了形 | |
| | 7 | 文型と動詞 期末考査 | |

| | | 学習項目 | 具体的な学習内容と方法 |
|-----|------|--------|-------------|
| 二学期 | 9 | 助動詞 | |
| | 10 | 受動態 | |
| | | 中間考査 | |
| | 11 | 不定詞 | |
| 12 | 期末考査 | | |
| 三学期 | 1 | 分詞 | |
| | 2 | 準動詞まとめ | |
| | | 3 | |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

スポーツでは地道な基礎練習を怠っては良いプレーはできません。一つの技を身につけるために徹底的な反復練習が必要であることは周知のことです。英語の学習においても、同様です。中学英語の苦手な部分をしっかり自分で復習し、新しく習う範囲は日々の予習、復習を欠かさない。また、副教材の参考書で常に知識を広げることが重要です。英語は必ず「暗記」を必要とします。こつこつと積み上げていかなければ、何もしていないのに急に力が着くということは絶対ありません。No pain, no gain! 日々の努力を期待しています。

| | | | |
|---------|---|---------------------------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 指名者講習英語 | 2 | 1年I類 | 選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | 副教材等 | |
| ***** | Vision Quest English Expression I Standard Big Dipper English Communication I | 英語表現とコミュニケーション英語のそれぞれの副教材 | |

| |
|--|
| 科目の到達目標 ○普段の授業の復習をし、定期考査でコミュニケーション英語と英語表現のどちらも点数が取れるようになる。 ○積極的に取り組み英語に慣れようとする態度が身に付いている。 |
|--|

| |
|---|
| 評価の観点と方法について 出席状況・プリント・ノート等の提出、宿題・提出物の内容、小テスト、学習態度等に基づいて算出する。 |
|---|

| | 月 | 学習単元 | 学習項目 | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-------------|---|----------|-------|--|---|
| 一 学 期 | 4 | Lesson 1 | 文の種類 | ①さまざまな文の種類(平叙文・疑問文・命令文・感嘆文)の英文を書くことができる。②自分やクラスメートを紹介できる。 | ①授業に積極的に参加しているか。 ②板書事項をしっかりと理解しているか。 ③予習・復習がなされているか。 ④小テストや課題にしっかりと取り組んでいるか。 |
| | 5 | Lesson 3 | 時制 | ①現在、過去、未来についての英文を書くことができる。②過去の出来事について簡単な文章を書くことができる。③近い未来の予定について簡単な文章を書くことができる。④旅行の計画について説明できる。 | |
| | | 中間考査 | | コミュニケーション英語と英語表現の中間考査対策 | |
| | 6 | Lesson 4 | 完了形 | ①完了形を使って、現在・過去・未来の完了、結果、継続、経験を表すことができる。②過去に行ったことのある場所について簡単な文章を書くことができる。③初めて何かを経験したときのことについて簡単な文章を書くことができる。④自分が経験したことがあるスポーツについて、簡単な文章を書くことができる。 | |
| | 7 | Lesson 2 | 文型と動詞 | ①様々な種類の動詞を使い、適切な文型を使って英文を書くことができる。②普段行うことについて簡単な文章を書くことができる。③興味や関心のあることについて説明できる。 | |
| | | 期末テスト | | コミュニケーション英語と英語表現の期末考査対策 | |

| | 学習単元 | 学習項目 | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|---|------------------|------|--|---------|
| 二 学 期 | 9 Lesson 5 | 助動詞 | ①助動詞を使って、能力・許可・義務・禁止・推量などを表すことができる。②学校の規則について簡単な文章を書くことができる。③過去の習慣について簡単な文章を書くことができる。④いつかしてみたいと思っていることについて簡単な文章を書くことができる。 | |
| | 10 Lesson 6 | 受動態 | ①受動態を使って適切に英文を書くことができる。②好きな映画や本などについて簡単な文を書くことができる。③最近驚いたことについて簡単な文章を書くことができる。④歴史的な建物について簡単な文章で説明できる。 コミュニケーション英語と英語表現の中間考査対策 | |
| | 11 中間考査 Lesson 7 | 不定詞 | ①不定詞を使って適切に英文を書くことができる。②将来の夢について簡単な文章を書くことができる。③日常生活で大切にしていることについて簡単な文章を書くことができる。④日常生活でしないように気をつけていることについて、簡単な文章を書くことができる。⑤お礼の手紙を書くことができる。 | |
| | 12 Lesson 8 | 動名詞 | ①動名詞を使って適切に英文を書くことができる。②自分や家族が得意なことについて簡単な文章を書くことができる。③自分が楽しみにしていることについて簡単な文章を書くことができる。④好きな娯楽について述べることができる。 コミュニケーション英語と英語表現の期末考査対策 | |
| | 期末考査 | | | |
| 三 学 期 | 1 Lesson 9 | 分詞 | ①分詞を使って適切に英部を書くことができる。②写真の内容について説明できる。③日本の高校生の特徴について説明できる。④学校の制服について、賛成か反対の立場をとって文章を書くことが意見を述べることができる。 | |
| | 2 Lesson 10 | 関係詞 | ①関係代名詞を使って適切に英文を書くことができる。②知人について簡単な文章を書くことができる。③自分が必要としていることについて説明できる。③住んでみたい場所について簡単な文章を書くことができる。④日本の行事について説明できる。 | |
| | 3 | | コミュニケーション英語と英語表現の学年末考査対策 | |
| | 学年末考査 | | | |
| <p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>高校1年生の英語はコミュニケーション英語と英語表現の2種類があります。それらが、1週間で6時間毎日あります。それらを週2時間の補修で補うとすれば、講習以外での普段の努力が大変重要となります。特に中学で苦手となった者は、中学の復習を自分でして下さい。わからなければ質問に応じます。この講習では、英語表現を中心に復習します。例年英語表現の方が苦手なものが多いからです。また講習の授業毎に確認テストを行います。それが、そのまま定期考査につながるの、積極的に取り組んで下さい。</p> | | | | |